

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 国語】

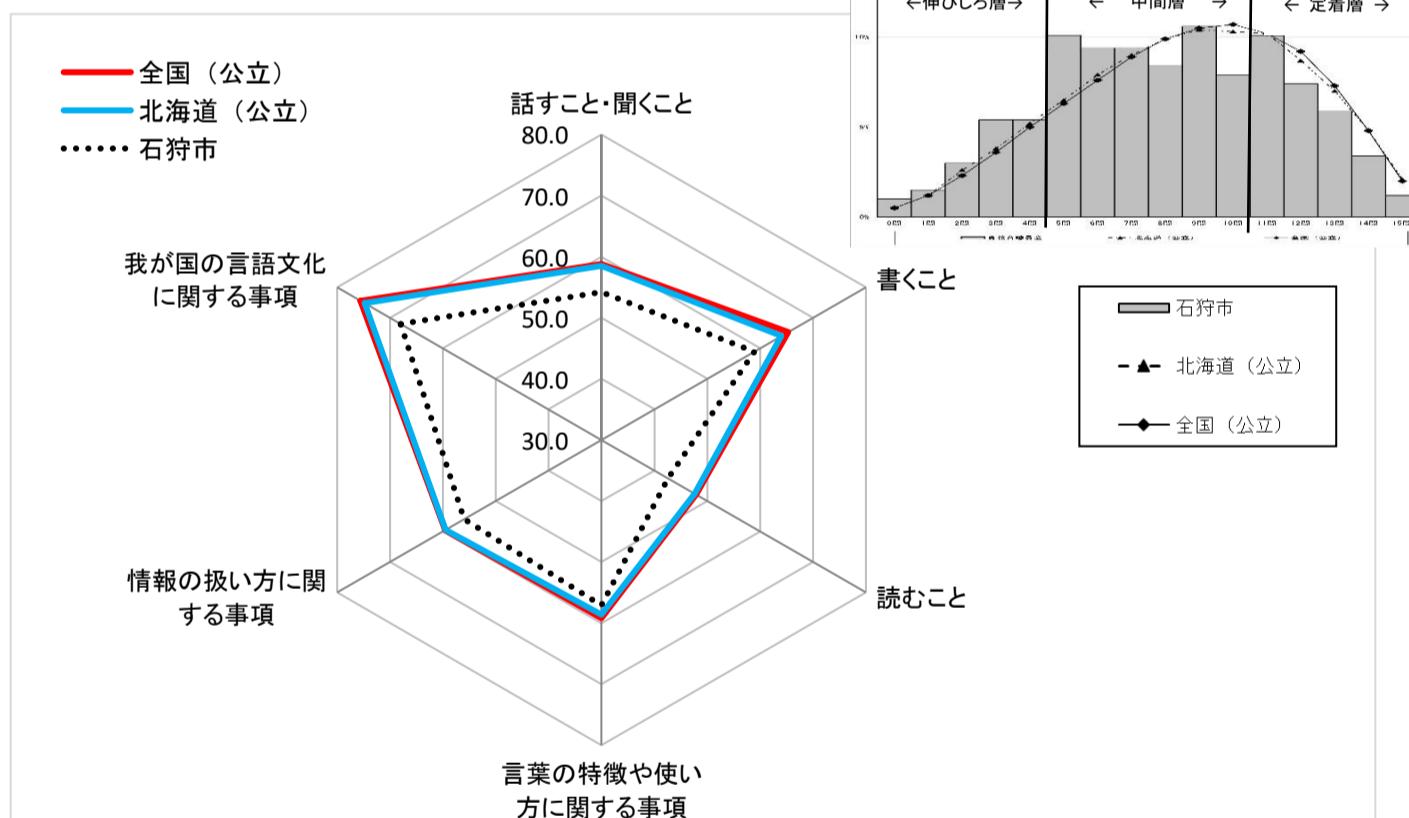
□ 正答率の状況 □

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.7問/15問	58.1%
全道(公立)	8.6問/15問	58%

全国との比較	相当低い	低い	やや低い	ほぼ同様(下位)	同様	ほぼ同様(上位)	やや高い	高い	相当高い
石狩市		○							

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域等の平均正答率の状況 □



□ 国語科の概要 □

◇国語の正答率は全国、全道より、低い結果となりました。令和5年度との比較では、全国との差は広がる結果となりました。

◇領域別では、「話すこと・聞くこと」領域は全国、全道よりもやや低く、「書くこと」「読むこと」領域は全国、全道より低い結果でした。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国、全道と同様(下位)であり、「情報の扱い方に関する事項」は全国、全道よりやや低く、「我が国の言語文化に関する事項」は全国より相当低く、全道より低い結果でした。

◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国とほぼ同様(下位)、「短答式」は全道・全国よりも低い、「記述式」は全道・全国より相当低い結果となりました。

国語

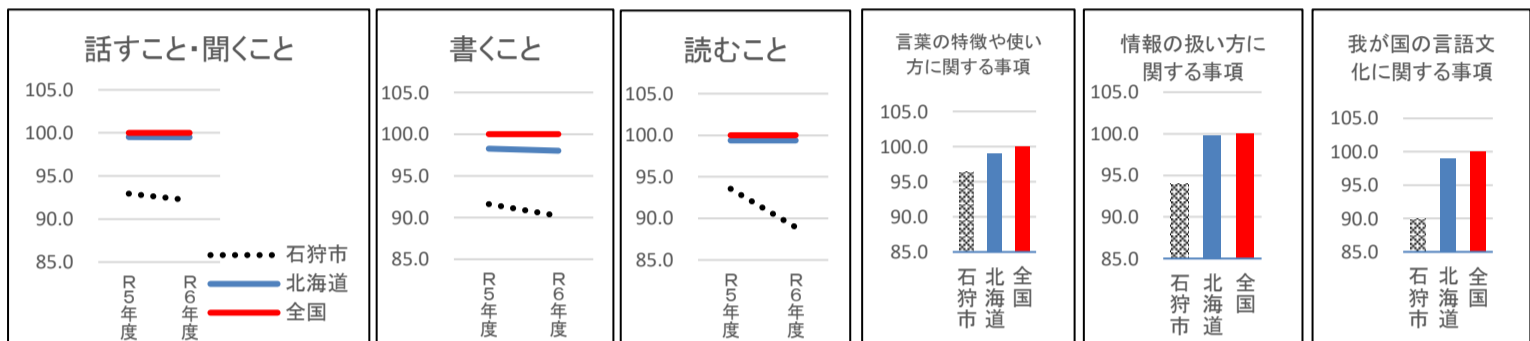
○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- 文章中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する。
- 話合いの話題や発言を踏まえ、これからどのように本を選びたいかについて自分の考えを書く。
- 説明的な文章を読み、本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。
- 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。
- 短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並び替える。
- 問題数は15問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較（但し、言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項は、本年度のみ）



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・情報の扱い方に関する事項は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・我が国の言語文化に関する事項は、全道より低く、全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	情報の扱い方に関する事項	71.2%	75.2%	75.2%
3一	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	書くこと	79.6%	81.0%	81.4%

【全国平均と差がある問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全国正答率	全国との差
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	30.8%	44.7%	-13.9%
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	読むこと	35.5%	36.3%	-8.3%
3三	漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.6%	68.8%	-9.2%

三四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	書くこと	38.2%	49.3%	-11.1%
----	-----------------------------------	--	------	-------	-------	--------

【指導の改善にあたって】

<p>【問題番号1四 話すこと・聞くこと】 話し合いにおいて、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができるように指導することが大切です。また、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することも大切です。グループで話題を決めて話し合い、話し合ったことを基に自分の考えをまとめる学習活動が考えられます。</p> <p>【問題番号2三 読むこと】 説明的な文章において主張と例示との関係を捉える際には、各段落が文章全体の中で果たす役割について捉え、それが書き手の考えを伝える上でどのような効果をもたらしているかなどを考えながら読むことが大切です。説明的な文章を読んで筆者の主張と例示を捉え、文章の構成や展開について他者に説明する学習活動が考えられます。</p> <p>【問題番号3三 言葉の特徴や使い方に関する事項】 漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切です。実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことや端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択する力を養うことも重要です。</p> <p>【問題番号3四 書くこと】 自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが大切です。物語を創作する学習の中で、下書きした文章などを読み合い、どのようなことを伝えようとして各場面の内容を構想していたのか、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているのかなどを、説明したり確かめたりする学習活動が考えられます。</p>
--

【教科（国語）に関する意識（生徒質問紙項目42～49 国語1より）】

質問内容		肯定的な回答 石狩市	肯定的な回答 全国	全国との 差
(42)	「国語の勉強は好きですか」	60.5%	64.3%	-3.8%
(43)	「国語の勉強は大切だと思いますか」	92.7%	93.9%	-1.2%
(44)	「国語の授業内容はよくわかりますか」	77.2%	82.7%	-5.5%
(45)	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	87.8%	90.6%	-2.8%
(46)	「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか」	74.8%	78.7%	-3.9%
(47)	「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか」	76.2%	80.5%	-4.3%
(48)	「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」	73.9%	76.7%	-2.8%
(49)	「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか」	79.3%	82.0%	-2.7%
(国1)	「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答	62.8%	72.0%	-9.2%
	3問あった記述式問題の無解答率の平均	17.2%	11.1%	6.1%

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 数学】

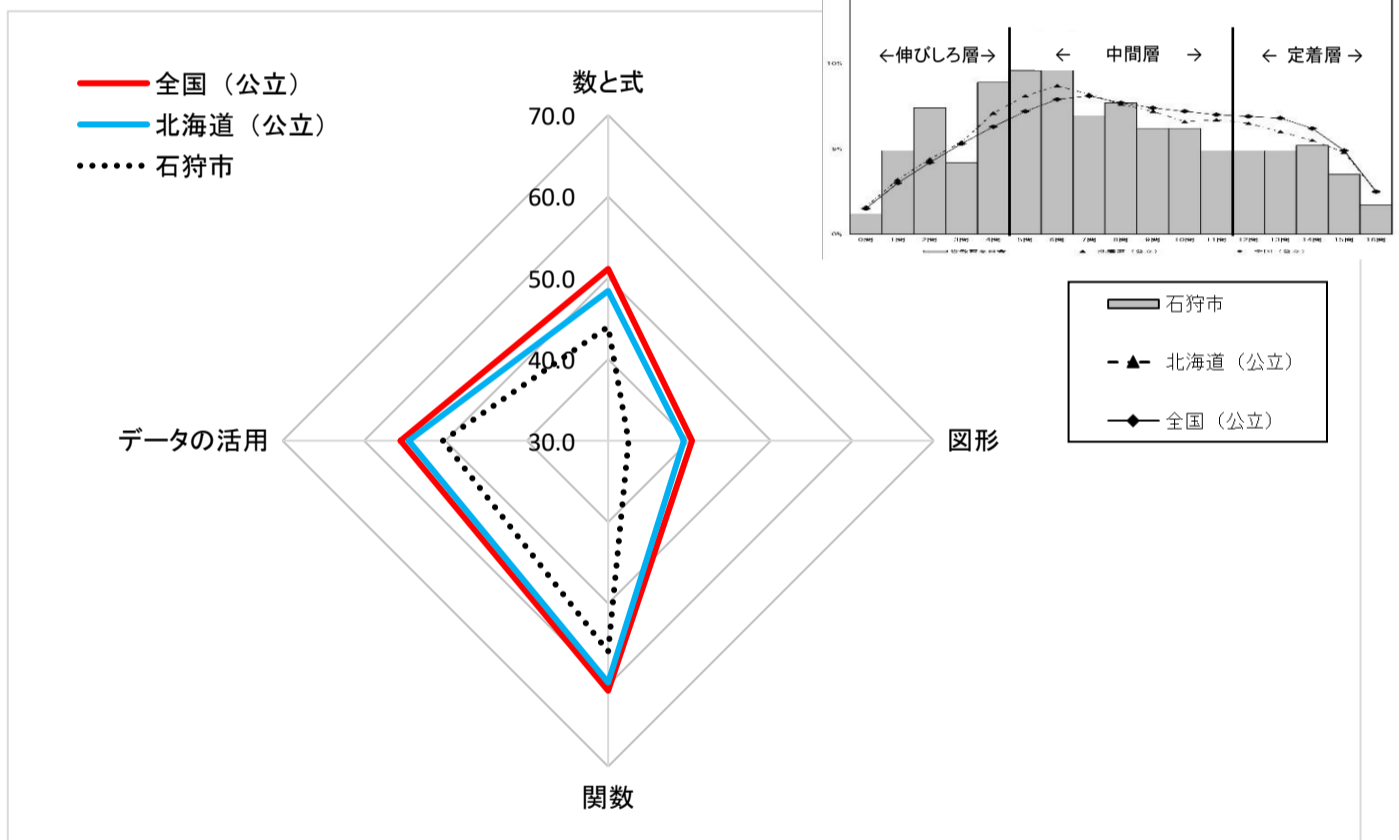
□ 正答率の状況 □

	数学	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.4問/16問	52.5%
全道(公立)	8.2問/16問	51%

全国との比較	相当低い	低い	やや低い	ほぼ同様(下位)	同様	ほぼ同様(上位)	やや高い	高い	相当高い
石狩市		○							

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域等の平均正答率の状況 □



□ 数学科の概要 □

- ◇数学の平均正答率は、全国、全道より低い結果でした。令和5年度との比較では、全国との差は縮まる結果になりました。
- ◇領域別では、「数と式」は全国より相当低く、全道よりやや低い、「図形」は全国より相当低く、全道より低い結果でした。「関数」は全国、全道よりやや低い結果でした。「データの活用」は全国より低く、全道よりやや低い結果でした。
- ◇問題形式別では、「選択式」「短答式」は全国より相当低く、全道よりやや低い結果でした。「記述式」は全国、全道より低い結果でした。

数学

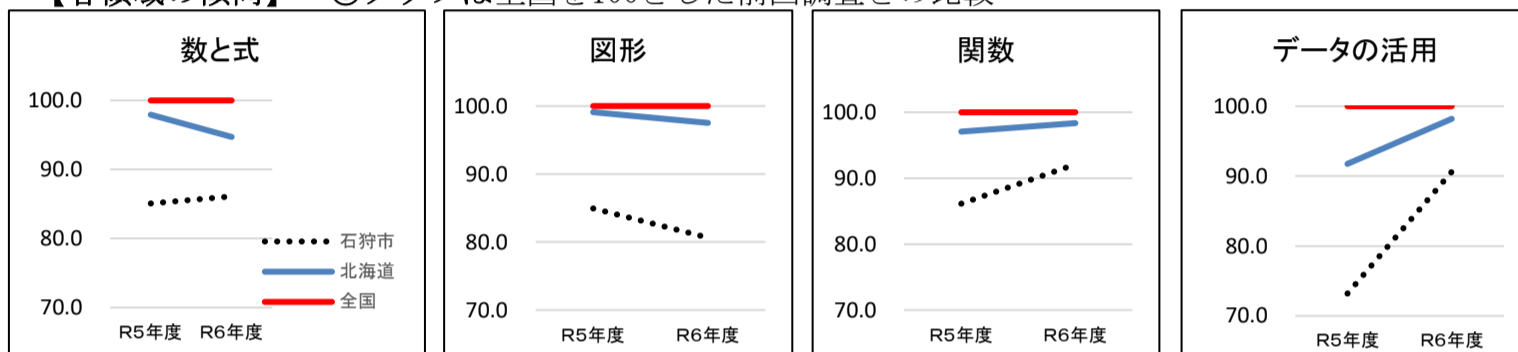
○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す。
- 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることを説明する。
- 二つの線分の長さが等しいことを、三角形の合同を基にして証明する。
- 「強」と「弱」の設定のあるストーブで、18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。
- 障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」ことを5つの箱ひげ図を比較して説明する。
- 問題数は16問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較



- ・「数と式」の領域は、全道よりやや低く、全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道より低く、全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「データの活用」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
6 (1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	数と式	88.4%	89.4%	90.2%
8 (1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	関数	77.3%	82.6%	83.4%

【全国平均と差がある問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全国正答率	全国との差
2	等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	数と式	32.8%	52.5%	-19.7%
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる	図形	59.3%	68.3%	-9.0%

9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	図形	16.5%	25.8%	-9.3%
-------	---	----------------------------	----	-------	-------	-------

【指導の改善にあたって】

<p>【問題番号2 数と式】 ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導することが大切です。本問を使って授業を行う際には、$6x + 2y = 1$ をyについて解くことは、$y = \square$の形に変形することであると確認する場面を設定することが考えられます。</p> <p>【問題番号3 図形】 図形の移動について考察する際に、図形がきまりにしたがって移動している様子を観察し、移動前と移動後の二つの図形の関係を捉え、図形の移動の性質を見いだすことができるように指導することが大切です。具体的には、対応する点は回転の中心からの距離が等しいことや対応する点と回転の中心を結んでできる角の大きさはすべて等しいことを見いだす活動を取り入れることが考えられます。</p> <p>【問題番号9 (1) 図形】 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。本設問を使って授業を行う際には、二つの線分が等しいことを証明するための方針を立て、それに基づいて証明する活動を取り入れることが考えられます。</p>
--

【教科（数学）に関する意識（生徒質問紙項目50～57 数学1より）】

質問内容		肯定的な回答 石狩市	肯定的な回答 全国	全国との差
(50)	「数学の勉強は好きですか」	48.3%	57.2%	-8.9%
(51)	「数学の勉強は大切だと思いますか」	82.3%	87.2%	-4.9%
(52)	「数学の授業内容はよく分かりますか」	59.7%	75.7%	-16.0%
(53)	「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	75.5%	78.5%	-3.0%
(54)	「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」	55.3%	57.2%	-1.9%
(55)	「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」	75.1%	78.1%	-3.0%
(56)	「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」	46.6%	46.0%	0.6%
(57)	「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」	74.6%	77.0%	-2.4%
(数1)	「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答	43.2%	50.0%	-6.8%
	5問あった記述式問題の無解答率の平均	33.8%	26.5%	7.3%